

漁業資源・漁場調査と情報提供事業

安江尚孝・山根弘士・武田崇史・陶山公彦・武田保幸（資源海洋部）

1 目 的

和歌山県周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存及び合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

なお、本事業は水産資源調査・評価推進委託事業による。

2 方 法

主な調査市場（図 1）で、漁獲データ収集等の資源評価調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ）及び資源動向調査（ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ、クマエビ）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）を月 1 回、沿岸定線 24 定点及び浅海定線 18 定点において実施した（図 1）。

3 結果及び考察

資源評価調査及び資源動向調査の結果の一部を図 2 に示す。瀬戸内海標本 2 市場（西脇、栖原）の船びき網によるシラスの漁獲量は、4 月は極めて少なかったが、5 月に平年を上回る大きなピークがあった。2 そうまき網によるサバ類漁獲量は、7 月及び 11 月は平年を上回ったが、他の月では平年を下回った。2 そうまき網（比井崎、御坊市、田辺）によるマアジ漁獲量は、7 月及び 12 月は平年を上回ったが、他の月では平年を下回った。2 そうまき網によるマルアジ漁獲量は、例年ピークとなる産卵期の 5、6 月に平年を下回り、大きなピークにはならず、10 月以降も平年を大きく下回った。瀬戸内海標本 1 市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は、2 月及び 6 月は平年を上回ったが、他の月では平年を下回った。紀伊水道外域標本 1 市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量は、すべての月で平年を下回った。また、海洋観測表として整理した資料を添付した。海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）等の結果については、独立行政法人水産総合研究センター、各都道府県水産試験場及び社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベース化を行った。資源評価調査のうち主要魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ）について、その「資源評価」が、国立研究開発法人水産研究・教育機構により策定、公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報や紀伊水道春シラス漁場調査速報などを通じて関係漁業者・団体に提供した。ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ及びクマエビについては、資源動向をとりまとめ、国立研究開発法人水産研究・教育機構に報告した。「第 50 回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「令和元年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議」、及び「令和元年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会」などにおいて、調査結果を報告した。

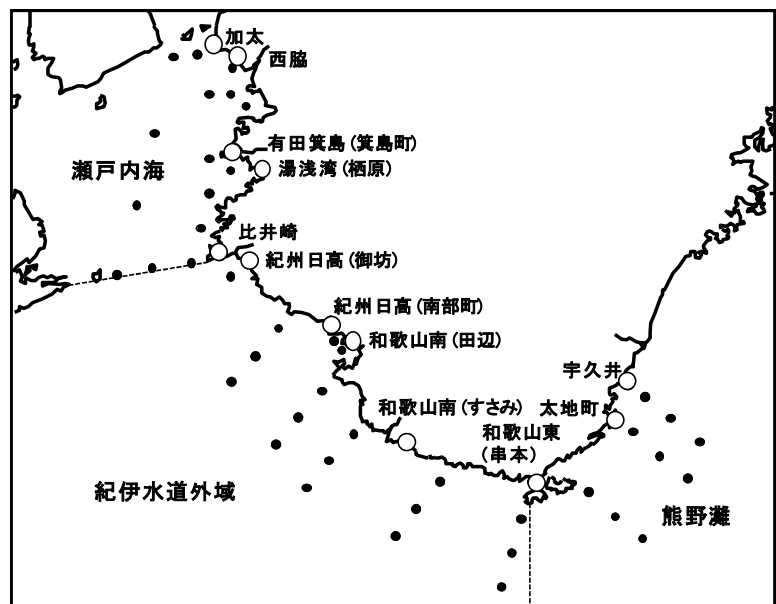


図 1 主な調査市場（○）と海洋観測調査定点（●）

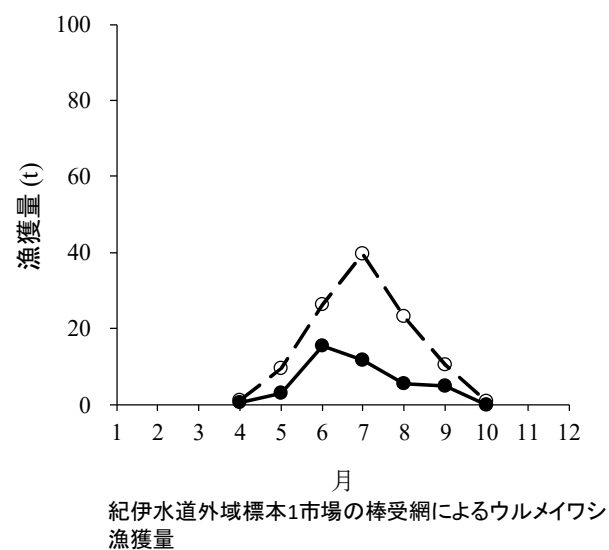
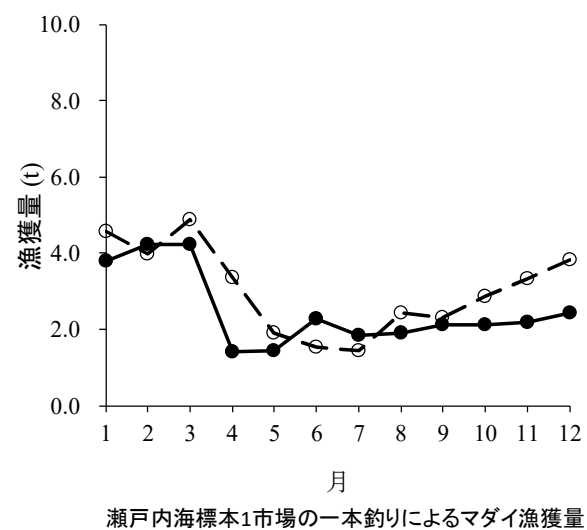
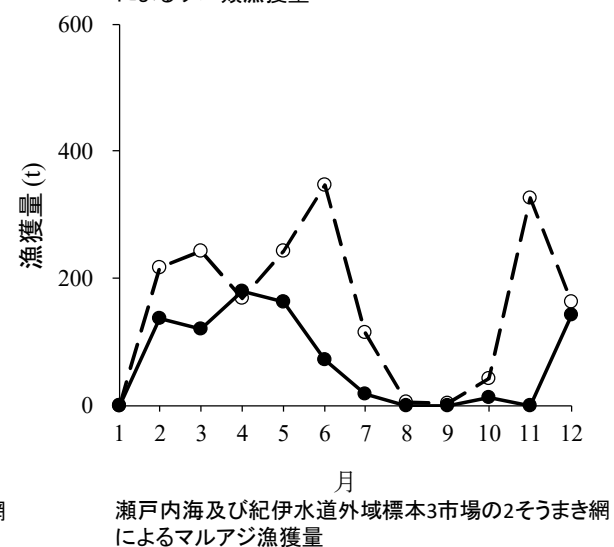
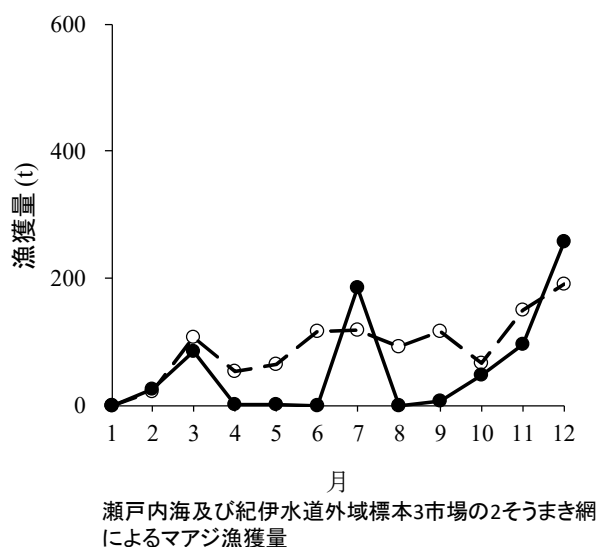
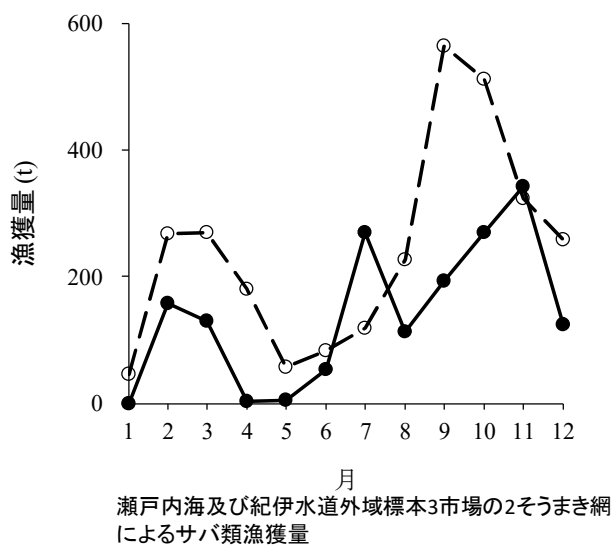
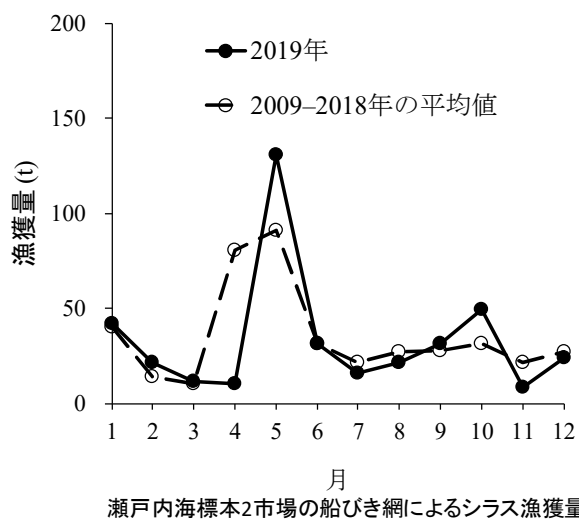


図2 主要魚種の月別漁獲量